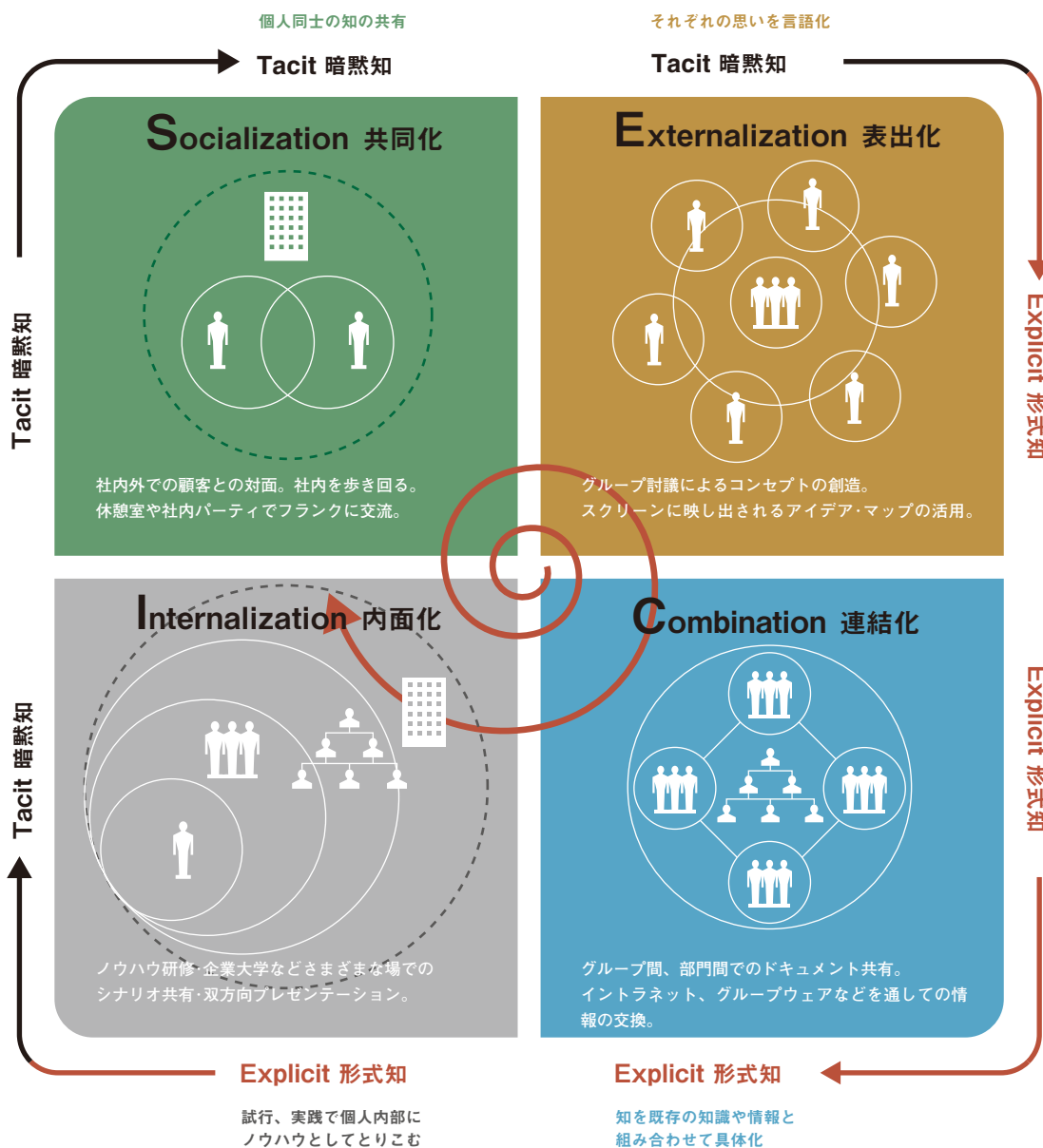
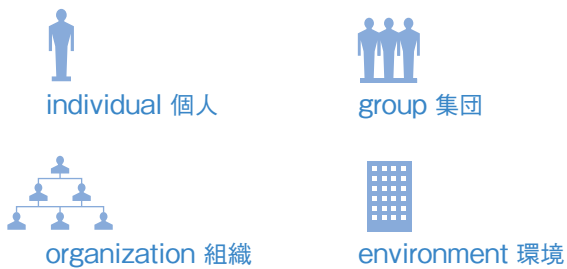


知識創造のための、 個と組織を循環するスパイラル

企業の中における知的源泉には、個人が経験やノウハウとして内面化している「暗黙知」と、マニュアルや戦術として組織全体に共有されている「形式知」があるといわれます。それぞれは異なるものですが、同時に相互に作用しあい、補完しあうものです。それぞれのノウハウを「表出」し、それらを他の情報と組み合わせて「連結」し、試行・実践を通して再び個人に「内面」化し、さらに組織として「共同」化する。新しい知識創造を生み出すスパイラル。それをダイナミックに循環させる「場」の仕掛けが必要になります。



知識創造のモデル (SECI) (野中郁次郎・紺野登 (1999)『知識経営のすすめ』)

知識創造のための、個と組織を循環するスパイラル

07

ノマディック・コミュニケーション